住吉貝塚

【所　在　地】大島郡知名町大字住吉字兼久，字船藏
【種　　別】国指定史跡
【指定年月日】平成１９年７月２６日

住吉貝塚の竪穴住居跡

沖永良部島西端部に所在する，縄文時代後期後半から弥生時代初頭併行期の貝塚を伴う集落遺跡である。昭和32（1957）年に学術調査が行われ，早くから南島の先史時代を代表する遺跡として知られてきた。平成13（2001）年から平成17（2005）年には，町の教育委員会により発掘調査が行われ，遺跡の規模がおおよそ東西120m，南北100m に及ぶことが判明した。また，14棟の竪穴住居跡と３基の土坑，そして貝層が２か所で確認された。

竪穴住居跡については，遺跡全体で50棟ほどになると考えられる。遺構の残存状況は極めて良好であり，縄文時代後期後半の地面を掘り込むだけの構造から，縄文時代晩期や弥生時代初頭併行期の地面を掘り込み，壁面に琉球石灰岩を組み上げる構造へという変遷過程を追うことができる。また，出土する石器・装身具・獣骨・魚介類などからは当該期の生態系や独特な生活様式復元に多くの情報を提供し，琉球列島では類例の少ない遺跡として位置づけることができる。当該期の奄美・沖縄地域の生活スタイルや自然環境を考える上できわめて重要である。